

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	公益財団法人 鎌倉能舞台
公演団体名	公益財団法人 鎌倉能舞台

内容
<p>① 能楽の基礎知識や歴史のお話。→プロジェクターをお見せしながら聞いて貰います。</p> <p>② 「謡曲」が江戸時代に武士の共通語の教科書となった解説の実践として、生徒全員で「小鍛冶」の一節を謡う体験をしてもらいます。(コロナ対応で声を出すのが難しい場合は省略)</p> <p>③ 本公演の当日に使用する能面、装束・小道具などをお見せします。</p> <p>④ 楽器の説明、使用可能になるまで数十年から数百年掛かる事などを話し、日本の伝統文化についても理解を深めてもらいます。</p> <p>⑤ 「小鍛冶」の後場で使う「鎚(つち)」を作って、刀をうつ場面を練習してもらいます。(コロナ対応で難しい場合は工作物をお渡ししますので適宜作成して頂ければ大丈夫です)</p> <p>※感染症予防のため、本公演当日、公演前にワークショップを行うことも可能です。 ※能楽師のワークショップを控え室より中継で各教室の生徒さん向けに映像等で流すことも考えられます。</p>

タイムスケジュール (標準)
<p>※出演者到着から開始まで30分、ワークショップは1校時(本公演当日の場合)、原則2校時。本公演当日にWS開催の場合は、ワークショップ終了後、休憩を入れて、続けて本公演を行います。</p> <p>プロジェクター、スクリーン、マイク1本をご用意ください。</p> <p><input type="radio"/> WS準備 (プロジェクター設置。装束や能面・楽器を長机に拡げる) 30分</p> <p><input type="radio"/> ワークショップ 1校～2校時分(途中休憩あり)</p>

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
3名 (能楽師3名)

学校における事前指導
「能狂言のしおり」(ワークショップ資料)と、ワークショップ時に作成する「鎚(つち)作成用素材」(ワークショップ備品)を事前にお送りいたします。事前指導は特に必要ありません。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	公益財団法人 鎌倉能舞台
公演団体名	公益財団法人 鎌倉能舞台

演目
<p>〈第一部〉</p> <p>1: 始まりの御挨拶</p> <p>2: 狂言鑑賞 「柿山伏(かきやまぶし)」(15分)</p> <p>3: 休憩(10分)</p> <p>〈第二部〉</p> <p>4: 能鑑賞 「小鍛冶(こかじ)」(40分)</p> <p>プロジェクターによる字幕付き。「謡」の一節を生徒全員で謡う体験はコロナ対応により省略。</p> <p>5: 狂言体験ワークショップ 狂言の先生と、今見た狂言の所作を習い、体験します。(15分)</p> <p>コロナ対応により書略可。実施の場合は全員マスクで密にならないよう実施します。</p> <p>6: 質問コーナー 生徒さんからの質問にお答えいたします。(10分) (コロナ対応省略可)</p> <p>公演時間(100分)</p>

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
<p>出演者: 21名</p> <p>スタッフ: 3名</p> <p>合計: 24名</p>

タイムスケジュール (WSを本公演当日に開催の場合)
<p>※スタッフ・出演者到着から舞台設営・開始まで30分から1時間、公演が100分、公演終了後の撤収にかかる時間は30分程度です。</p> <p><input type="checkbox"/> 舞台準備 (簡易能舞台セットをスタッフと能楽師全員で設営します) 30分～1時間</p> <p><input type="checkbox"/> ワークショップ 公演に先立ち、能楽師3名で事前ワークショップを行います。</p> <p><input type="checkbox"/> 休憩 20分</p> <p><input type="checkbox"/> 公演 100分(途中10分の休憩あり) (学校の要望により短縮も可)</p> <p><input type="checkbox"/> 片付け (簡易能舞台セットをスタッフと能楽師全員で片付けます) 30分</p>

実施校への協力依頼人員

簡易舞台セットで体育館に「能舞台」を作ります。(簡易柱・欄干、揚げ幕、鏡板)
設置時間&撤収にかかる時間はそれぞれ30分～1時間、設置・撤収ともに実演者側で行いますが、搬入・搬出時に、運び入れや、舞台設置場所の指示等のお手伝いを先生方にしていただければ幸いです。(コロナ対応により難しい場合は、能楽師でやりますのでお手伝い頂かなくて大丈夫です)

演目解説

狂言「柿山伏(かきやまぶし)」

小学6年生国語の教科書に載っている演目を鑑賞してもらいます。

[あらすじ]:

修行を積んだ山伏も人の子、腹が減れば食べ物欲しくなる。枝もたわわに実る柿に誘惑されて、登って食べていたら、畑主に見付かる。いまいましさに畑主は、烏よ猿よ鳶(とび)よと山伏をからかう。思わず木から飛下りた山伏は、したたかに腰を打って腹を立て、看病せよと祈り始める。さて効験のほどは……

山伏は山野での荒行で超人的な法力と体力を身につけ、庶民に恐れられていました。狂言の世界ではこれを見事に戯画化し、楽しい健康な笑いの種にしてしまいました。最もポピュラーな名作狂言の一つです。狂言の世界ではこれを見事に戯画化し、楽しい健康な笑いの種にしてしまいました。最もポピュラーな名作狂言の一つです。

能「小鍛冶(のう こかじ)」

最近の”刀剣”ブームにより大人気の「小鍛冶(こかじ)」を、省略箇所を入れて子供でも観やすい長さにして、また、スクリーンにわかりやすい現代語訳の字幕を映し出して上演します。

激しい囃子の音楽の中で登場する、狐の冠をかぶった後シテの姿は勇壮です。

[あらすじ]:

一条の帝は夢で三条の小鍛冶宗近に剣を打たせよと告を受け勅使を遣わす。宗近はその勅命を光栄としながらも自分と同等の技量の相鎚がいなくては剣を打てないと断るが、勅命には逆らえない…困り果てた宗近が神頼みをしようと氏神の稻荷明神に向かおうとすると一人の少年が声を掛け帝の剣の注文を受けたことを尋ねる。

驚いた宗近が何者かと問うと少年は古今東西の名剣の物語を聞かせ、必ず相鎚は現れるから準備をして待てと言い姿を消す。

宗近が身支度を調べ待っていると稻荷明神の使いの狐が現れ、宗近と供に剣を打ち表に「小鍛冶宗近」裏に「子狐丸」と銘を刻み勅使に剣を納め狐は雲に乗って帰って行く。

前半は日本武尊が草薙の剣で東国の夷を滅ぼした場面を舞って見せ、後半は軽快な囃子の演奏と宗近と狐が剣を打ち上げるところが見せ場。全体にストーリー性に富み動きも多い小学生にも理解しやすい曲です。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

- ・**参加型**:ワークショップ時に習った地謡の一節を全員で謡ってもらいます。自分たちも能に参加している臨場感を味わってもらえます。また、舞台上でシテとワキが振る「鎚(つち)」を作成し、型をやってもらいます。本公演でその場面を能楽師が演じるのをみて、自分が体験したことを思い出し、能公演の関心が深まります。
(コロナ対応で声を出す、型を全員でやるのが難しい場合は、省略します)
- ・**字幕**:舞台の横に、わかりやすい現代語に訳した解説を表した字幕をプロジェクターで映し出します。今、どんな場面なのか、理解して貰いやすくなります。

児童生徒とのふれあい

体験ワークショップ

狂言と能の終了後、体験ワークショップを行います。
鑑賞した「柿山伏」に出演した狂言方が、曲中の台詞や所作を、代表して舞台上に上がった生徒と全員に体験してもらいます。(コロナ対応で難しい場合は省略します。実施する場合は全員マスクをつけたまま、密にならないよう工夫して実施します)

質問コーナー

能楽全般の質問に誠意を持ってお答えします。質問が多すぎて時間が足りない場合は、学校で取りまとめてもらえば責任を持って後日回答をいたします。(コロナ対応で時間を取るの難しい場合は、後日、学校よりメール等で質問を受け付けます。)

アンケートの実施

公演終了後、児童生徒が能狂言にどれだけ興味を持ったか、アンケートを行います。